

各 関 係 機 関 長 殿

岡 山 県 病 害 虫 防 除 所 長

病 害 虫 発 生 予 察 情 報 に つ い て

病害虫発生予報第5号を下記のとおり発表したので送付します。

平 成 22 年 度 病 害 虫 発 生 予 報 第 5 号

平成22年 8 月 4 日
岡 山 県

予 報 概 評

作 物 名	病 害 虫 名	発 生 時 期	発 生 量
水 稻	葉いもち(中生種、晩生種)	—	やや少
	穂いもち(極早生種、早生種)	—	やや少
	紋枯病	—	やや少
	白葉枯病	やや遅	やや少
	穂枯れ	—	やや少
	ニカメイガ	—	少
	セジロウンカ	—	やや多
	トビイロウンカ	—	並
	イチモンジセセリ	—	並
	コブノメイガ	—	やや多
カメムシ類	—	やや多	
ダ イ ズ	べと病	—	やや少
	紫斑病	—	やや少
	ハスモンヨトウ	—	並
モ モ	モモハモグリガ	遅	やや多
	ナシヒメシンクイ	—	並
	ハダニ類	—	やや多
ブ ド ウ	さび病	やや遅	並
	褐斑病	—	並
	べと病	—	やや多
	ブドウトラカミキリ	—	並
	フタテンヒメヨコバイ	—	並

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病	— — —	少 並 並
トマト	疫病 葉かび病	— —	少 並
ダイコン	軟腐病	—	やや多
アブラナ科野菜	キスジノミハムシ	—	並
野菜共通	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ	— — —	並 並 並
キク	ナミハダニ	—	やや多

1 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月26～27日の巡回調査によると、県南部地帯の発生圃場率は61.1%で
 平年並 (平年：60.8%)であった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平
 年より少ないとされており、本病の発生を抑制する条件である。例年、梅
 雨明け後の高温少雨条件で病勢が停滞する。

防除上の参考事項

ア. 葉いもちは穂いもちの伝染源となるので、発生圃場では速やかに薬剤防
 除を実施する。未発生圃場でも耐病性が弱い品種では病勢の進展が速いの
 で、早期発見に努める。

(2) 穂いもち (極早生種、早生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月26～27日の巡回調査によると、県北部及び中部地帯の葉いもちの発
 生圃場率は24.1%で平年 (47.7%) より低かった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平
 年より少ないとされており、本病の発生を抑制する条件である。

(3) 紋枯病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. イネの茎数は全般的に平年並である。

イ. 7月26～27日の巡回調査によると、発生圃場率は18.9%で平年（40.4%）より低く、発生程度も低い圃場が多かった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高いとされており、本病を助長する条件である。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月26～27日の巡回調査において、発生を認めなかった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、本病の発生を抑制する条件である。

(5) 穂枯れ（ごま葉枯病菌による穂枯れ：早生種、中生種）

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月26～27日の巡回調査によると、葉におけるごま葉枯病の発生圃場率は3.3%で平年（21.6%）より低かった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、本病の発生を助長する条件である。

(6) ニカメイガ（第2世代幼虫）

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月27～28日の巡回調査において、発生を認めなかった。

イ. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、7月5半旬までに誘殺は認められず、平年(0.4頭)より少なかった。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月26～27日の巡回調査によると、発生圃場率は72.2%で平年（56.5%）よりやや高く、すくい取り（20回振り）調査による成幼虫の発生量は37.9頭で平年（26.8頭）よりやや多かった。

イ. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、505頭で平年(169.9頭)より多かった。

ウ. 平成22年度植物防疫情報第3号参照。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月26～27日の巡回調査によると、県中部の1圃場で長翅型成虫1頭

が認められ、県内圃場への飛来が確認されたが、赤磐市の予察灯において、7月5半旬までに飛来は認められず、平年（0頭）並であった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高いとされており、発生を助長する条件である。

(9) イチモンジセセリ（第2世代幼虫）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月26～27日の巡回調査によると、発生圃場率は11.1%で平年（10.8%）並であった。

イ. 被害程度は軽微であった。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月26～27日の巡回調査によると、被害発生圃場率は74.4%で、平年（51.3%）よりやや高かった。被害程度は平年並であった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高いとされており、発生をやや助長する条件である。

(防除上の参考事項)

ア. コブノメイガによる止葉の被害は減収につながるとされている。

イ. 防除は、次世代幼虫の発生が予測される8月6半旬及びその7～10日後の2回行う。

(11) カメムシ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月20日の県北部イネ科牧草地のすくい取り調査（20回振り）によると、アカスジカスミカメの成虫数は138.4頭で平年（98.7頭）よりやや多かった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(防除上の参考事項)

ア. 発生源であるイネ科植物からの飛来を防ぐため、水稻の出穂2週間前から出穂3週間後の間は、水田周辺の除草を行わない。

(ダ イ ズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、本病の発生を抑制する条件である。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、本病の発生を抑制する条件である。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は、126頭で平年(346.8頭)より少なかった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

2 果 樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生時期 遅

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月16、26日の巡回調査では発生を認めず、平年の発生圃場率(2.8%)より低かった。

イ. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は645頭で、平年(103.0頭)より多かった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高いとされており、発生を助長する条件である。

(2) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月16、26日の巡回調査によると、発生圃場率は67.6%で平年(45.2%)よりやや高かったが、被害程度は軽微であった。

イ. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は59頭で、平年(84.4頭)よりやや少なかった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高いとされており、発生を助長する条件である。

(3) ハダニ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月16、26日の巡回調査によると、発生圃場率は37.8%で平年(27.5%)よりやや高かった。被害が中程度以上の圃場率は10.8%で、平年(12.5%)並であった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は少ないとされており、発生を助長する条件である。

(ブドウ)

(1) さび病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月16、26日の巡回調査において、発生を認めなかった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、本病の発生を助長する条件である。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月16、26日の巡回調査によると、発生程度は平年並であった。

イ. 7月23日の県予察圃場での発病葉率は、43.5%で平年(42.8%)並であった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている。本病は、風雨により伝染するので発生を助長する条件ではない。

(3) ベと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月16、26日の巡回調査によると、一般圃場での発生圃場率は75.0%で平年(54.5%)よりやや高かったが、発生程度は低い圃場が多かった。

イ. 7月23日の県予察圃場での発病葉率は、65.0%で平年(52.7%)よりやや高かった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、本病の発生を抑制する条件である。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月16、26日の巡回調査において、平年どおり発生を認めなかった。

(5) フタテンヒメヨコバイ (第2世代幼虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月16、26日の巡回調査によると、発生圃場率は6.7%で平年(6.3%)並であった。

イ. 被害程度は低く、平年並であった。

3 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は45.5%で過去9年間の平均値67.8%よりやや低かった。

イ. 7月20日の県予察圃場での発生葉率は30.0%で、過去9年間の平均値42.8%よりやや低かった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、本病を抑制する条件である。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は18.2%で平年（過去9年間の平均値25.9%）並であった。

イ. 7月20日の県予察圃場での発生葉率は1.8%で、過去9年間の平均値11.4%より低かった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている。本病の発病適温は28℃前後であり、助長条件ではない。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は63.6%で平年（過去9年間の平均値59.0%）並であった。

イ. 7月20日の県予察圃場では発生を認めておらず、平年（7月9日）より遅い。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている。本病は、気温が高く、降水量が多い場合に発病が助長される。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月22～23日の巡回調査において発生を認めず、過去9年間の平均値3.8%より低かった。

イ. 7月20日の県予察圃場では、平年どおり発生を認めなかった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、本病を抑制する条件である。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 7月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で過去9年間の
平均値15.8%よりやや高かった。
- イ. 7月20日の県予察圃場での発病葉率は、7.1%で過去5年間の平均値
2.0%より高かった。
- ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は
平年より少ないとされており、本病を抑制する条件である。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 7月22～23日の巡回調査によると、一般圃場の発生圃場率は57.1%で
過去9年間の平均値24.5%より高かった。
- イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は
平年より少ないとされている。本病は、気温が高く降水量が多い場合に
発病が助長されるので、特に助長条件ではない。

(アブラナ科野菜)

(1) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 7月22～23日の巡回調査によると、発生量は平年よりやや少なかった。
- イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は
平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

(各野菜共通の害虫)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 7月22～23日の巡回調査によると、発生は平年よりやや少なかった。
- イ. 県予察圃場（赤磐市）の黄色水盤への7月1～5半旬の飛来数は、30
頭で平年（67.3頭）よりやや少なかった。
- ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は
平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 7月22～23日の巡回調査によると、露地野菜（ナス、キュウリ）での
発生量は平年よりやや少なかった。
- イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は
平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月22～23日の巡回調査によると、発生は平年よりやや少なかった。

イ. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は126頭で、平年（346.8頭）よりやや少なかった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

4 花き類

(キク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月22～23日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239

病害虫発生予察情報テレホンサービス
岡山県病害虫防除所では、主要病害虫の発生状況や防除に関する情報を迅速にお知らせするために、テレホンサービスを実施しております。気軽にご利用ください。 電話：086-955-2224